総
自分たちは,大学の募集要項を見てこの広大にや
って来た。大学は誰にとっても,入ってみなければ
その本当の姿,あるいは,どんな学問をする所かは
わからないものだろう。だが,総合科学部の「 新し
い,日本で唯一の学部 」という看板に,良い面も悪
い面も少なからず感じてやってきた私たちは,今 ,
不安を抱きながらも,望みを持って大学生活を送っ
ているのである。
大学生の一人として見たその現状
大学での勉強,それは非常に冷酷な個人主義のも
のであり,講義を聞いている隣でお菓子を食べてい
ても,さしつかえない限り文句を言う筋合のもので
はない。大学では自分で求めねば何も得られないと
いわれるゆえんであろう。
しかし,誰でも,何の将来も描くことなしに,あ
の苦の受験勉強に耐え得たものはいない。それが,
入学後,多くのものが,みるみるうちに,娯楽に没
頭し,アルバイトに奔走し,サークル活動にのみ喜
びを覚えるようになるのだから,学問の道へ踏み込
もうと努力している人がたとえ多くいたとしても,
俗に言われる「 大学遊民 」ばかりが目に止まるの
も当然であろう。
それでは,そういう現状の底に流れているものは
何か。受験勉強からの解放感,それに加えて,親に
養なってもらえる境遇が,意外にも,その堕落に大
きく作用しているのではないだろうか。しかし,こ
れは表層を捉えたにしか過ぎない。それは,みなが
ある似通った悟りを自分の中に開くようになったの
ではないのだろうかと思ゎれる事である。つまり,
大学に入ぅてからの自分に大きな夢を託す事もでき
ない現代の社会を認め,そのような社会に問題を感
じても,解決するには労が大き過ぎると考える。結
局は大学を出て,そんな社会に組み込まれて行くの
ならば,大学時代は,それまでの緩匿期であればよ
いと考える。身近な関係において幸せであればよい
しゃにむにやっても,しようがないと結論づける訳
科
今
〈口学部四年目に考える
、総科一年の間では一―
編 1集委員一年
である。これは,大学に入ってから知った新事実で
あった。しかし,それを横目で見ながら,ふと立ち
止って,まわりを見まわすと,総科一年の中に,違
う何かを感じたのである。
総科一年の一人として見たその現状
この文章を書くにあたって,一年生の間で「 総合
科学部四年目を考える」と題した座談会を開いた。
まずはじめに,「 何故あなたは総合科学部を選ん
だのか。 」という質問に対して,「 自分の専門を高
校の段階で決定する事に抵抗がぁったから,一年間
考えた後で,自分の専門の選べる学部という事で」
あるいは,「 大学では,ともかく,広い範囲にわた
って知識が得たかった。それだけでなく,同時に専
門の学問もできるこの学割は望むところだった。 」
また,「 公害問題ひとつとっても,既存の学部では,
そのような事をやれそうな所がない。その問題を,
総合的な研究によって解決してゆける所が総合科学
部であると考えた。」またある0報ま, F新しい学部
で,自分の可能性を試そうと思った。それだけのも
のが中にあると確信してきた。 」という様な四つの
特徴ある意見があぅた。総科一年の間では,入学前
の段階にあっては,大体,これらのいずれかに含ま
れる意見を持っていたと言えそうだ。少なくとも総
合科学部に対しては,すばらしい学部であるという
イメージがあった事は確かだ。
しかし,「 入学後の総合科学における個人的な展
劃|まどうか。 」という質問に対しては,期待した答
は帰ってこなかった。時期が早いため考えられない
というのが大多数の言うところであった。しかしな
がら,これはどういう事であろうか。これは,すな
わち,入学以来言われてきた「 総合科学という学問
はない。だから,各自でテーマを探し,それに対し
て総合的見地で学際領域の研究を進めて行ってほし
い。 」という言葉に,私たちの,なるほどと|は思ぃ
ながらも実際に一体何をやったらいいのかわからな
いという気持ちを裏がえしたものなのである。さら
ー
ゝ v
-4-

―
/
に,学ぶ方法から自分で見つけて行かねばならない
という大きな負担と,今問われているカリキュラム
の問題とかを聞く事によって,将来の見通しを暗く
持つものが少なくないと思われる。
この二つの質問に対する反応を見た限りでは,ま
だ学部に対して,いろいろな意味で期待するところ
は大きい。しかし,入学後知り得た諸条件や,いろ
いろな障碍に対面し,総科一年の全体の傾向として
入学前の意識は減退しつつあると見ることができる
だろう。
新しい動き
そんな中で創刊された,総合科学部52生を対象に
したミニコミ紙「 いんてぐれいと」は新しい何かを
生み出そうという情熱のあらわれである。ここにそ
の創刊の言葉から引用して,どんなものかという説
明に代えたいと思う。
私たちは今,総合科学部という一つの共同体を
構成する一員となっています。しかも
曖飛翔"
する総合科学部の四期生であります。日本で唯
一の学部の徒として,パイオニアとして,この
総合科学を発展させてゆかねばならぬ使命を背
負っているわけです。総合科学は,一人一人が
勉強して開拓してゆかねばならないものでしょ
うが,それと同時に私達皆の連帯と情報交流も
必要であるのです。 (中略)この総合科学部と
いう一個の社会を,私たちから融離することの
ない,あくまで私たちが主人公である社会であ
り続けるための一助となる事を願って作りまし
た。 」
ここには,総合科学部を有機的な社会とみなし,
その一部として自分を位置づける事の必要性が唱え
られている。また,そういう面だけでなく,疎外さ
れる大学生の中にあって,忘れかけた連帯感,心と
心のふれあいというものを求めようとする気持も感
じられる。このような新しい動きは,これから発展
させてゆくべきものである。
まとめ
一般論として,現在の大学生は,大学を第一に楽
しく過ごす時期と考え,学問はその次になっている
とよく言われる。この責任を個人の意識の問題だけ
に負わせられるだろうか。大学入試ですべて終って
しまう。それから後の人生は大学入試の時点で決ま
ってしまうと考えさせる程に矛盾を含んだ入試制度,
強いては,日本の社会というものを憂えざるをえな
い。しかしながら,そういう現実の中で,広大総合
科学部は大学改革の先がけ的存在であると,学内外
での評価は高い。その学部を選んだ私たちは,今後
どのように行動していくのか。そのために現在の状
態はどういうものか考えていこうとした。
一期生は今年四年,四年目にして入学してきた私
たちから見た学部は,総合科学の特異性,もしくは
可能性という点に期待するものは多いけれど,今も
って問題は多くあるという点に将来への不安を抱か
ざるをえないものとなっている。中には,それゆえ
選択の不適当さを後悔する向きもある。あるいは,
そこから総合科学とはいかなる学問かという事を真
剣に考えてゆかねばならないと考えるものもいる。
その中にあって,先に述べたような新しい動きも
ある。コミニュケーションを浸透させる事によって,
なんとか道を開こうという方向に向かおうとする動
きである。こういう芽は長続きせねばならぬ。さら
に発展させて,全学部のものとしたいと切に望むよ
うになった。そう願う一方で,教官の努力,教官と
の交流を期待する声が強くなってきても当然ではな
かろうかという事を記して,この拙文の終りとした
い。 (文責石田)
-5ニ

かねてより総合科学部において進められてきた総合系大学院 (修士課程)計画は,最終的に地域研究,
環境科学の二研究科案にまとめられて,本年 8月に文部省に提出された。設置が本決りになるのは明年
2月の本審査を経た後であるが,現段階においてすでに文部省の53年度概算要求項目に取り上げられて
おり, 8月下旬,設置審による予備審査もほぼ問題なくパスしているので,両研究科が計画どおり来年
度から発足することはほぼ確実と思われる。以下,文部省に提出された総合系大学院計画の全文を紹介
する。
総合系大学院(修士課程)設置について
構想
日本における大学院改革は,その必要性が万
人によって認められているにもかかわらず,今
日まで具体的な形で実現された例は,決して多
いとは言えない。
さきに総合科学部の創設により,人間性と創
造性と総合性を柱にした研究・教育体制をうち
たてようとした広島大学は,その成果をふまえ,
総合系大学院を創設することにより,全学の大
学院改革を推進しようとするものである。
総合系大学院は(1)総合科学部の基礎の上に立
つ修士課程と,12)全学を基盤として設置される
博士課程 (後期)とからなるが,この両課程は
組織面・運営面において,互に有機的関連を有
するものである。
趣旨
1 わが国従来の大学教育においては,個々の学
問分野に応じた学部・講座との組織が基盤をな
し,高度の専門家の養成に重点が置かれてきた。
しかし,大学が将来の人類社会に貢献するため
には,このような専門深化の方向とならんで,
これと相補的関係にある総合化の方向にいっそ
うの重点をおく必要がある。
日本の大学院は,学際領域の開拓をはじめと
し,真に創造的な研究成果をあげる点で,世界
の進運におくれをとっているが,その原因は,
主として学問の総合化が不十分だった為と考え
られる。総合系大学院の創設は,経済大国を学
術大国に移行させる上で,スプリングボードの
役割を果そうとするものである。
2.総合科学部は創設以来,内外の学界から注目
され,アメリカ,ソ連をふくめて,世界各国か
らの来訪者があとを絶たない状況である。また
文部省をはじめ,各大学や有識者の協力により
学部の内容を飛躍的に充実することが出来た。
昭和50～ 51年に購入したイギリス思想史に関す
るライブラリーは,国際的にも注目された。教
官の研究成果は,まだ大学院が置かれていない
にもかかわらず,イギリス・ アメリカ等をふく
む諸外国から,多くの留学生を迎える程度に達
した。
学部創設以後,教授陣にはヮシントン大学・
イリノイ大学の正教授から頭脳Uターンした者
や,東大・京大など国内の有力大学の教授・助
教授から転じたものをふくめ,今日のぞみ得る
最高のスタッフとなった。前任校におぃて,す
でに大学院教官であった者だけで20名が,総合
科学部教官として着任している。旧教養部教官
の中からも,仁科奨励賞など各種の学術賞受賞
者が相つぎ,文部省科学研究費も特定研究・ 総
合研究A・ 海外学術調査などをふくめて,毎年,
3～ 4千万円の査定をうける現状となった。
総合科学部の充実については,広島大学のす
べての学部が認めているところであり,まさに
大学院を設置してよい状況にあると言える。
3 総合系大学院修士課程は,高度の職業人の養
成を目的とするものである。今日の社会は,広
い視野をもち,しかも基礎的な学問的訓練を十
分に積んだ人材を要求している。地域研究,自
然環境科学研究は,ともに代表的な学際的分野
である。学生は二つ以上の学問体系を修得する
と共に,その両者を駆使することによって,総
合化・独創化の訓練を積むことになるので,実
社会が鶴首待望している職業人として,学窓を
-6-

巣立つことが期待できる。
4 地域研究研究科。自然環境科学研究科は,共
に一研究科・一専攻制をとることによって,す
べての授業科目を連続スペクトル式に配置し,
サセックス型のカリキュラムによって,機動的
に学習できるよう,工夫されている。また総合
セミナーをはじめ,学問を総合化できるように,
新しぃ教育ジステムがとられている。これらは
大学院改革の一つの型を示したものと言ってよ
趣 旨
1.国際情勢が常に変動し,国際間の交流がますま
す増大している今日,世界の主要地域並びに自国
と密接な関連をもつ地域の実体を,総合的にしか
も高度に専門化した形で,正しく把握する必要が
急激に高まってきた。従来の伝統的学問分野の研
究では,現代社会の要請に応じられなくなってき
たのである。
地域研究は,特定の地域の文明あるいは文化の
歴史と現状を,総合的。有機的に研究する学問の
分野である。すなわち,歴史学,文学,政治学,
経済学などの伝統的な学問が,その専門の領域,
あるいは特定の国の各専門分野を研究するに反し,
地域研究の特色は,地域を限定するとともに,そ
れを世界の中で位置づけることによって,人文科
学,社会科学,時には自然科学の知識を総合する
点にあ`る。 .
2 総合科学部地域文化コースの段階では,該当地
域の言語 (日本研究の場合は主要外国語)の運用
能力を十分に養い,その地域に関する基本的な,
しかも広範囲にわたる実用的'・ 総合的知識を授け
ることを主眼とし,更に将来の研究に対する方向
づけとして,初歩的な学際的研究方法に対する指
針を与えることを目標とした。
これに対し,本研究科では,学部教育の基盤に
立って本格的な総合的・学際的研究を行なわせ,
該当地域の専門研究者を養成するばかりでなく,
より広く深い実用的知識を授け,正しぃ識見と行
動力をもって国際的に活躍できる社会人を育成す
ることを意図するものである。
く,実施の暁は多大の成果をあげ得るものと信
ずる。
5。これらの修士課程研究科においては,豊かな
知識と広い視野をもつ有能な人材を養成すると
ともに,今後設けられる予定の総合系大学院博
士課程 (後期)と連繋して,学際的分野におい
て,国際的にも注目されるプロジェクト研究が
続々生れ,画期的な研究成果があがるものと思
われる。
なおとくに,日本研究は国際的視野に立って日
本を研究するが,あわせて外国人の日本研究者や
学生を受入れ,諸外国における日本研究の振興を
も目ざすものとする。 .
3.総合科学部においては,関連講座として日本研
究講座,アジア研究講座,ヨーロッパ研究講座,
英米研究講座,比較文化研究講座,社会文化研究
講座,英語講座, ドイツ語講座,フランス語講座,
中国語講座,ロシア語講座,情報行動基礎研究講
座,人間行動研究講座などがあり,多岐にわたる
学問領域の研究者がいるので,上記の要請に応え
・ることが可能である。
4 本研究科において包摂される旧来の学問分野は,
文学,比較文学,言語学,芸術学,歴史学,地理
学,文化人類学,法学,政治学,経済学,統計学,
社会学,技術論などである。
地域研究研究科要項
1 本研究科には地域研究専攻の一専攻をおく。
2.学生定員は,20名とする。
3.修業年限は, 2年とする。
4.学位は,国際学修士とする。
5 m 授業科目は,専門科目(日本 |アジア研究
系,ヨー甲ッパ・ アメリカ研究系,比較社会・
螂較文化研究系)と共通科目に大別される。
学生はこれらの科目から30単位以上を履修し,
‐ かつ必要な研究指導を受けたうえ,修士論文
を提出してその審査および最終試験に合格し
なければならない。
イ)地域研究研究科に入学する学生には,総合
科学部においてすでに学際的な地域研究にあ
地域研究研究科設置について
ー
-7-

る程度親しんだ者と,他の学部において伝統
的な単一学問分野を専修した者との二種類が
考えられる。したがって,必修科目等を一律
に履修させることをせず,学生の問題意識,
学部教育の経歴を考慮して,個別的,弾力的
に科目選択を指導する。
吻具体的には,学生の履修に焦点をもたせる
観点から,日本・ アジア研究系, ヨーロッパ。
アメリカ研究系,比較社会・比較文化研究系
のいずれかの系を専修するよう指導する。
なお,日本・ アジア研究系,ヨーロッパ・ア
メリカ研究系ではそれぞれ同一文化圏に属す
る広範な地域の文化を理解した上で,日本,
ァジァ,ヨーロッパ,ァメリカという,より
同質度の高い地域の文化を総合的,有機的に
把握することを目的とする。比較社会・ 比較
文化研究系では,世界の主要地域の思想,制
度,芸術,国際関係などを比較的視角に立っ
て考察することを主眼とし,あわせて特定地
域の研究を行なうための理論的基礎を与える
ことを目ざすものである。
日本研究科は,環境科学研究科と互に協力し
て,学際研究の本領を発揮できる様に,企画
されている。例えば,情報学とくにコンピュ
ーターを駆使して政治学・統計学・言語学な
どに新分野をきりひらき,あるいは行動学を
活用して文学・歴史学・思想などの研究に新
しい光をあてるなど,地域研究の研究成果を
飛躍的に高めることを意図している。
囲授業科目のうち「 日本地域研究 」「 アジア
地域研究 」「 ヨーロッパ地域研究 」「 アメリ
カ地域研究 」は本格的学際研究の導入の役割
を果たし,「 総合セミナー 」は総合研究の理
念・体系と技術・方法につき,周到な訓練を
施すとともに一応の仕上げの役割を果たすも
のである。
囲諸地域外国語については,語学の応用能力
養成に重点を置くとともに専門的な地域研究
に必要な地域言語の習得にそなえるものであ
り,最低履修単位数の30単位のほかに履修す
るものとする。
標準履修単位数
選択必修科目 6単位次の授業科目群から6単
位取得すること。
「 社会調査基礎論 」
「 地域研究方法論 」
「 比較文化論 」
「 日本文化論 」
「 国際関係論 」
「 日本地域研究 」
「 ァジア地域研究 」
「 ョーロッパ地域研究 」
「 アメリカ地域研究 」
各系専門科目16単位以上うち 6単位を各系の「 総
合セミナー 」から取得する
こと。
なお選択必修科目 6単位の
ほかに一一日本・ ァジア研
究系の専修生は「 日本地域
研究 」または「 アジァ地域
研究 」を 2単位,
ヨーロッパ・アメリカ研究
系の専修生は「 ヨーロッパ
地域研究 」または「 アメリ
カ地域研究 」を 2単位,
比較社会。比較文化研究の
専修生は「 国際関係論 」ま
たは「 比較文化論 」を 2単
位 ,それぞれ取得すること。
各系専門科目
以外の授業科
目
8単位以上地域研究専攻内の他系
専門科目及び共通科目の中
から8単位以上 (環境科
学系共通科目を含む)を選
択することが望ましい。
ヽ
修
了
者
の
活
動
分
野
外交官
商社 (企画。在外駐在)
ジャーナリズム
教育職
図書館・博物館
広告・ 宣伝
行政職
各種研究機関
教育研究
機
構
-8-

科目区分授業科目
専 F]科目
日本・ アジァ
研究系
ヨーロッパ・
アメリカ研究
系
比較社会・比
較文化研究系
日本地域研究
日本歴史研究
日本思想研究
日本文学語学研究
日本政治経済研究
日本法律制度研究
日本社会研究
日本文化論
アジア地域研究
アジア歴史研究
アジア思想文化研究
アジア文学語学研究
アジア政治経済研究
アジア特殊研究
総合セミナー
ヨーロッパ地域研究
ヨーロッパ歴史研究
ヨーロッパ思想研究
ヨーロッパ文学語学研究
ヨーロッパ政治経済研究
ヨーロッパ社会文化研究
ヨーロッパ特殊研究
アメリカ地域研究
アメリカ歴史研究
アメ・リカ思想文化研究
アメリカ文学語学研究
アメリカ政治経済研究
アメリカ特殊研究
総合セミナー
文化人類学
比較文化論
比較思想論
し一
″
し〆
地域研究研究科授業科目
科目区分授業科目
共通科
④
目
③
◎諸地域外国
五
比較・ 対照言語学
国際関係論
比較技術文化論
比較社会体制論
比較教育制度論
総合セミナー
地域研究方法論
社会調査基礎論
社会行動論特論
行動理論特論
言語理論
言語文化論
計算機シミュレーション
コンピューター・ グラフイ
組み合せアルゴリズム
計算機システム
数理言語学
社会経済データ解析
ツク
英
襲ｍ
フランス語
ドイツ語
イタリア語
スペイン語
ロシア語
中国語
朝鮮語
タ イ語
インドネシア語
スワヒリ語
その他
-9-